

久野康成の

「私なら、こうする！」

非常識な実践経営アドバイス



第3回【中小企業診断士として独立を目指しています】

[プロフィール]

久野康成(くの・やすなり)
公認会計士。人財開発・東京コンサルティングファーム会長兼 CEO。明誠監査法人パートナー。東京税理士法人統括代表社員。1965年生まれ。愛知県出身。滋賀大学経済学部を卒業後、青山監査法人(プライス ウォーターハウス)入所。監査部門・中堅企業経営支援部門にて、主に株式公開コンサルティング業に携わる。98年久野康成公認会計士事務所を設立。東京のほか、横浜、名古屋、大阪、福岡、香港、インドにて「第2の会計事務所」として会社を設立。経理部門へのスタッフ派遣・紹介など幅広い業務を展開し、グループ社員総数は430人に上る。著書に『できる若者は3年で辞める!』『2008年版 図解インドの投資・会計・税務の基本』(共に出版文化社)がある。

Question

昨年、10年以上にわたって働いてきた印刷会社を退職し、現在、中小企業診断士になるための勉強をしています。印刷会社では、総務・経理の仕事を長くしてきました。しかし、会社の経営環境が悪化し、成果報酬型の賃金体系を導入したこともあって、給与が大きく減少しました。会社の将来性も不安があったため独立を考え、退職しました。でも、この先、本当に中小企業診断士として生計を立てていけるかが心配です。若くして独立・成功された先生のアドバイスよろしく願います。

(東京都 無職 39歳)

Answer

独立して成功する鍵は強い「自信」を持つこと

近年、かつての終身雇用、年功序列型賃金体系から、成果主義型の賃金体系に変更する企業が増加しました。成果報酬型の賃金体系は、社員自身の成長もある意味、「自己責任」という考え方をベースに行われました。その結果、社員は自分の身は自分で守らなくてはならなくなった

のです。

このような流れの中で、多くの社員は、企業への忠誠心をなくし、自分自身のスキルアップに関心を持つようになりました。ここで、資格ブームが巻き起こったのです。資格は、自分自身のスキルを示す簡単な方法です。転職・キャリアアップを望む人にとっては、確かに有効な手段といえるかもしれません。

さて、中小企業診断士の資格

を取得し独立を目指すというこ

とですが「自分次第の努力次第です」と言いたいところですが残念ながら、100%失敗することでしょう。

経営コンサルタントは、自身自身の経営には、決して困らないということが最低の条件でなくてはなりません。自分自身が成功するか否かを悩む時点で、成功する人の思考法を持ち合わせていないのです。この先どうなるかなど、誰にも分かりません。

しかし、分らないのに情熱の炎を絶やすことなく突き進むためには、根拠のない「自信」が必要なのです。

鬼に金棒という言葉がありません。資格は、ある意味、金棒です。しかし、もっと大切なのは、自分自身が鬼であるかということです。普通の人間が、重い金棒を持つても、振り回すことですらできません。金棒が効果を発揮するのは、鬼が持っているからなのです。資格は、時として強烈な

武器になります。

では、どうすれば成功できるのか、金棒より先に鬼になる方法を考えれば良いのです。

会計士になったばかりの頃、ある外資系のクライアント先に配属されました。監査終了後、慰労会も兼ねて、監査チーム3名とクライアントの営業担当取締役、財務担当取締役の合計5人で飲みに行きました。

すると開口一番、営業担当取締役から「君に『信条』はあるのか」と質問されたのです。

私は一瞬、固まってしまいました。すかさず、その取締役は、私に畳み掛けました。

「すぐに答えられないのは、君に『信条』がないからだ」

情けないことに、そのとおりです。最新の会計基準なら、すらすら答えられたのですが。

「実はこの質問は、私が20年前、この会社に入るときに、当時の社長から採用面接で受けた質問なんだ」「私はこの質問に即答することができた。だから、この会

社に入社もできたし、さらに今、こうして役員をやっているんだ」

「コンサルタントに必要なのは『技』ではなく『心』」

完全に参りました。それと同時に、自分がいかに薄っぺらい人間かが分かりました。公認会計士の試験に合格し、いい氣になつていたのです。

当時は、天下でも取った気分だったでしょう。そんな私の薄っぺらさを見透かした取締役は、私に強烈なパンチを浴びせたのです。専門知識を身に付け、専門資格を取得したとしても、人間としての小ささは隠しきれません。自分の価値観があまりにも偏っていることに気付かされたのです。私は、その取締役がどんな信条を持っているのかは忘れてしまいました。

信条とは、その個人が信じる事柄です。人によって異なるのは当然ですし、まねする必要もありません。私も、あの取締役の

ような、堂々と胸を張って自分の信じることを語る人間になりたい。自分の「信条」を持ちたいと考えました。26歳。一人の人生が方向転換した瞬間でした。

スキルには、テクニカル・スキルとパーソナル・スキルがあります。テクニカル・スキルとは、知識・技術・経験・資格などで、私はこれらを総称して「技」と呼んでいます。

これに対して、パーソナル・スキルとは、考え方・哲学・リーダーシップなどで、総称して「心」と呼んでいます。

「技」は、金棒を意味し、「心」は鬼を意味します。コンサルタントとして、必要なスキルは、「心」なのです。心のレベルの高さが人間力を決めます。人間力こそコンサルタントに最も必要な要素なのです。

（このコーナーでは、経営に関するよろず相談を読者の皆様から受け付け、実践的アドバイスとしてお答えしております）